

標 題 : Sunflower, virgin-olive and fish oils differentially affect the progression of aortic lesions in rabbits with experimental atherosclerosis
ひまわり油、バージンオリーブ油、魚油は、実験的アテローム性動脈硬化のウサギで大動脈病変の進行に異なる影響をする

著 者 : C. M. Aguilera, et al. (スペイン グラナダ大学 生化学・分子生物学科、他)

掲 載 誌 : Atherosclerosis 162: 335-344 (2002)

要 旨 : この研究で、大動脈病変の進行に対するひまわり油、バージンオリーブ油、および魚油の影響を我々は報告する。

ニュージーランド ウサギ(各群 6 羽)にラード 3%とコレステロール 1.3%を含有する食事を 50 日間与えて、アテローム性動脈硬化を引起した。

動脈硬化対照群(A)をこの時点で屠殺し、3 群は 30 日の追加期間に以下の食事を与えた(栄養補給油 1.75g と標準の飼料 98.25g) : ひまわり油(S)、バージンオリーブ油(O)、魚油(F)。対照群(n=6)には標準の飼料を 80 日間与えた。LDL の脂質組成を測定し、大動脈アテローム性動脈硬化症の組織学的分析を行った。

アテローム生成食は LDL および大動脈組織でコレステロール値の有意な上昇をもたらした。S、O、F 群の大動脈弓で、コレステロールエステル含量が有意に上昇した。全ての動脈切片で脂肪線条が見られたが、A 群と比較して S 群だけが有意な症状の進行を示した。

高コレステロール - 飽和脂肪食を無コレステロール - 不飽和脂肪食で置換えても、ウサギでアテローム性動脈硬化は軽減しないと、我々は結論をだす。しかし、ひまわり油は症状の著しい進行を引起すけれども、エクストラバージンオリーブ油で強化した食事はこの進行を止め、魚油も少し抑える。
